

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-269762

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)11月29日

G 06 F 13/38
13/00
15/16
H 04 L 13/00
25/02

F-7165-5B
Z-7230-5B
A-2116-5B
Z-7240-5K
7345-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 プロセッサ装置間通信装置

⑯ 特 願 昭60-110548

⑰ 出 願 昭60(1985)5月24日

⑱ 発 明 者 佐 藤 純 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
⑳ 代 理 人 弁理士 岩佐 義幸

明 細 書

(産業上の利用分野)

1. 発明の名称

プロセッサ装置間通信装置

本発明は情報処理装置で使用されるプロセッサ装置間通信装置に関するものである。

2. 特許請求の範囲

(従来の技術)

(1) あらかじめ優先順位の定められた2つのプロセッサ装置間の通信システムに用いられるプロセッサ装置間通信装置において、前記プロセッサ装置間をワイヤードオフで結んだ1本の制御線を備え、各々の前記プロセッサ装置が、プロセッサ装置間通信の要求に応じることが可能な状態のとき、前記制御線への制御信号を駆動し、通信の要求を行おうとするとき、前記制御信号の駆動を中止する信号駆動手段と、通信の要求を行おうとするとき、前記制御信号の駆動を中止した後、前記制御線の制御信号の状態を判定する信号判定手段とを有し、この信号判定手段の判定結果により、通信の要求に相手側プロセッサ装置が応じられる状態であるか否かを確認することを特徴とするプロセッサ装置間通信装置。

プロセッサ装置間で通信を行うとき、最初に通信を要求するプロセッサ装置側が、要求されるプロセッサ装置側の通信要求受け可能状態を知る必要がある。プロセッサ装置間通信では、互いに通信要求を行う可能性がある為、従来、プロセッサ装置はそれぞれ相手側プロセッサ装置に通信受け可能状態を知らせる信号を少なくとも別々に出力する必要があり、この為少なくとも1本ずつ制御線を必要としていた。

(発明が解決しようとする問題点)

従来のプロセッサ装置間通信装置では、プロセッサ装置間通信の要求可能性確認の為に、少なくとも2本以上の制御線がプロセッサ装置間に必要でありこの為制御線の配線スペースを大きくとらなければならないという欠点があった。

3. 発明の詳細な説明

(問題点を解決するための手段)